



## ボランティアスピリットの継承のために 水難救済思想の普及活動レポート

(公社)日本水難救済会では、海事思想や水難救済ボランティア思想を啓蒙することにより将来の後継者になってもらえるよう、青少年を対象に、海上保安官や消防署員、ライフセーバーの方々を講師に招いて全国各地で水難救済ボランティア教室を展開しています。

(公社)日本水難救済会による、昭島市立つつじが丘南小学校での若者の水難救済ボランティア教室の様子

### 平成24年度 若者の水難救済ボランティア教室

「若者の水難救済ボランティア教室」は平成13年度から始まった事業で、小中学校や高校生等の若者に海

の知識を深めてもらうとともに、海に親しむ機会を提供し、実地体験を通じて救命技術を習得してもらうことを目的としています。

教室では、海の安全意識の向上を図るとともに、水難救済ボランティ

ア思想を啓蒙しています。今年度も国土交通省、海上保安庁、消防庁の後援を受けて全国各地で開催され、12月末までに19の地方水難救済会において80教室、10,644名が参加しています。

### ■(公社)日本水難救済会 東京海上保安部の協力のもと、若者のボランティア教室を開催

平成24年9月7日、東京都昭島市立つつじが丘南小学校にて開催しました。参加者は三年生及び五年生の児童64名と教職員4名。講師には、東京海上保安部から警備救難課職員

3名及び巡視艇まつなみ乗組員6名を招きました。

同校プールで水難事故発生時の対応や自己救命索の説明を行うとともに、水中歩行によって水流を作り漂流の模擬体験、個人及びバディによる背浮き、ペットボトルを利用した背浮きのほか、ペットボトルを使った救助などを児童に体験してもらいました。

当日は、気温が高くプールでの教室開催に適した天候。児童たちは元気いっぱい、にぎやかながら皆まじめに取り組んでいました。校長先生からは「以前、拝島小学校の時にこの教室を開催し、大変好評だった。今回もお願いして良かった。」と感想があり、見学した父兄からも「来年もこの教室を開催してもらいたい。」との意見が寄せられました。



### ■新潟県水難救済会

#### 夏休み中の水難事故防止を呼びかけ救命技術の実技を体験

平成24年7月13日、新潟市立白根第一中学校で開催しました。参加者は一年生生徒157名のほか教員5名でした。講師には、新潟海上保安部から警備救難課職員2名及び巡視船やひこ乗組員8名を招きました。

今回の教室は人数が多かったことから2グループに班を分け、実技と座学を50分ずつ実施しました。座学では、夏休み中は海浜事故が発生しやすいことから事故防止に向けて離岸流等についてスライドを使用した説明を行い、実技では、海浜事故防止策と救助法として、着衣による浮力実験や背浮き練習、ペットボトルを使用した浮力確保及び救命胴衣着用体験などを行いました。

座学、実技いずれも計画的なプロ



グラムにより効率的に進められた教室について、参加された教師等の方々から賞賛の声が寄せられました。

### ■茨城県水難救済会

#### 着衣泳やライフジャケット着用と、ペットボトル等による溺者救助法を体験

平成24年7月19日、ひたちなか市立那珂湊第二小学校において開催しました。参加者は、ひたちなか市立那珂湊第二小学校五、六年生児童77名と教職員等6名及びひたちなか市立磯崎小学校児童69名と教職員等6名です。

開催場所となったひたちなか市立那珂湊第二小学校では毎年教室を開催しており、今回は茨城海上保安部から講師(海上保安官)13名の協力をいただきました。教室では海での遊泳に伴う危険性について説明するとともに、着衣泳、ライフジャケット着用及びペットボトル等による溺者救助方法を児童等に体験してもらい、海浜事故の未然防止及び海難防止思想の普及や水難救済の普及啓蒙



を図りました。

参加した児童からは、溺者救助方法を体験して命の大切さを知ることができた、大変有意義なものであったとの感想が寄せられました。





## ■岡山県水難救済会

### 夏休み前に8小学校で実施 各校に救命浮輪等も贈呈

岡山県水難救済会では、夏休みを前に平成24年7月5日から7月13日にかけて岡山市、玉野市、倉敷市の8つの小学校において開催。講師として岡山ライフセービングクラブ救難所のほか水島海上保安部、玉野海上保安部の延べ55名の協力をいただきま

した。参加した児童数は8校合計で児童1,003名、教職員・保護者等43名となりました。

教室では「海浜事故防止と救助法」と「岡山県内及び玉野市内での事故発生の危険性と事故防止」をテーマに、海などで万一溺れた場合に大きく手を振る「救助を求めるサイン」を体験。また、岡山ライフセービングクラブ救難所員がレスキューチューブを使用した救助デモンストレーションを

行いました。

さらに、通学時などの服装で水に入った場合に動きが困難なことを体感してもらうとともに、着衣泳、ペットボトル等身近なものを使用した背浮き、救命胴衣の着用などを体験してもらいました。どの小学校の児童も真剣に取り組んでいました。

なお、7月9日に玉野市立八浜小学校で開催した教室では岡山県水難救済会会長(黒田晋玉野市長)をお迎えして水難事故防止を呼びかけるとともに、岡山県水難救済会の名入り「救命浮環」と「救命胴衣」を教材として同校に贈呈しました。また、八浜小以外の小学校には岡山ライフセービングクラブ救難所員が同会の名入り「救命浮環」と「携帯電話防水パック」を贈呈しました。



玉野市立八浜小学校(参加者 全校児童190名)



岡山市立古都小学校  
(参加者 二、五年児童75名)



岡山市立政田小学校  
(参加者 全校児童197名)



岡山市立妹尾小学校  
(参加者 六年児童82名)



岡山市立東晴小学校  
(参加者 五、六年児童160名)



玉野市立第二日比小学校  
(参加者 四年児童24名)



岡山市立太伯小学校  
(参加者 全校児童205名)



倉敷市立乙志摩東小学校  
(参加者 五、六年児童70名)

## ■千葉県水難救済会

### 5小学校において実施 身近なものを使用した着衣泳やAED心肺蘇生法を体験

千葉県水難救済会では、これまでに県下10カ所の小学校等において「若者の水難救済ボランティア教室」を開催。今年度も夏休みを前に平成24年7月2日から7月18日にかけて、君津市、千葉市、木更津市の5つの小学校において開催しました。参加者数は5校合わせて児童970名、教職員、保護者等66名。講師には、千葉県のほか千葉海上保安部から延べ45名の協力をいただきました。

各教室では自救技術として「もし水の中に落ちてしまったら」を想定し、慌てないで深呼吸をして体の中に空

気をいっぱい入れ、泳いで助けが来るのを待つことを説明。ペットボトルやランドセル、ボールなど身近なものを利用したさまざまな浮き方や、ライフジャケットの着用法を実地体験で学びました。また、他救技術としてペットボトルに紐をつけたものを使った救助法を解説。先生方や保護者には、AEDを使用した心肺蘇生法について実地体験を行っていただきました。

教室終了後、児童より「実際に服で水に入って、

すごく動きにくくて重たいと感じました。」「服を着たままクロールや平泳ぎができるようになりました。」「ランドセルが浮いたからびっくりしました。』などの感想文が寄せられました。



君津市立外箕輪小学校(参加者 五、六年児童180名)



富津市立天神山小学校(参加者 全校児童56名)



木更津市立金田小学校(参加者 全校児童147名)



木更津市立第二小学校(参加者 全校児童300名)



千葉市立寒川小学校(参加者 全校児童300名)